

医療・環境保全・農村開発

医療支援 パササンバオ医療チームの運営体制についての報告



診療車に続く必需品と聞いていた超音波機器。支援の予定でしたが、顕微鏡の要請が先にあり、私たちはそちらを優先しました。超音波機器の方はローンで購入し、妊婦一人200ペリの負担分を返済に充当しているという報告がありました。

助産所の運営、コミュニティでの活動に大忙しのナプサさんに助産所の運営状況について聞きました。「助産所の運営はたったの3名のフルタイムスタッフで回しています。サラは毎週土曜日から火曜日まで勤務、私は火曜日夕方にサラから業務を引き継ぎ、土曜日の午前中まで勤務しています。これに加えて週一回、勤務後にコミュニティのフォローアップの仕事もしています。患者の搬送もサラと私が担当し、事務作業はハニアが全て担当しています。とても忙しいですが、良いチームワークのおかげでスムーズに運営ができています。これが長く続くことをただ祈っています」十分なスタッフ体制とは言えませんが、多くのコミュニティのためにと一生懸命にやってくれています。「スタッフの雇用はとても厳しい状況です。多くの専門的な医療スタッフは高い給料を求めて海外就労を選ぶこともあります。サラもハニアも献身的でとてもよく働いてくれるので、賃金をあげる必要がある」と運営体制を維持していくことの難しさにも触れていました。国家試験準備中のモナリサが助産所に戻ることも期待できますが、当面は人件費支援は続けたいと思います。

CMIPカレッジ奨学生のジェニーがダバオ医大を卒業！

イロイロ市の病院でのインターン勤務生活スタート



(写真) 医大卒業写真とインターン勤務中のジェニー

前号、短信記事で紹介のCMIPカレッジ奨学生ジェニーのダバオ医大卒業のニュース。8月よりパナイ島イロイロ市の病院でのインターン勤務が始まり、勤務中の写真がCMIPチャリスより届きました。1年のインターン勤務の後、国家試験を受験する予定です。これまでの会報でもお伝えの通り、ジェニーは少し遠回りをし、計5年間カレッジに在籍、ダバオ医大でも一度留年しましたが、なんとか順調に卒業の日を迎えました。長く厳しい道のりでしたが、ジェニーの頑張りを称えとともに、基金の形で私たちにその学費を託して下さった平賀様、また、応援下さった皆様に感謝いたします。1年後の国家試験へ向けてより一層頑張ってもらいたいと思います。

なお、9月のはじめにチャリスを通じて、ジェニーから追加支援の依頼がありました。イロイロ市での下宿代、病院のユニフォームや感染症対策用の防護服、医学書の購入等の支出が続いているようです。今しばらく皆様のご協力をいただいで支えていきたいと思っております。

ティヌオス女性組合のキッチンにて料理教室が開かれました！

新設のキッチンスペースもご紹介！！

前110号でその完成をお知らせしたティヌオス女性組合の家。竹細工などの共同作業のほか、家事の合間に制作したビーズ製品を持ち寄って、デザインなどのアイデアを共有するなど活用されていますが、9月18日の午後には、ILSに子どもを通わせる父母を対象とした料理教室も、半地下部分に設けられたキッチンスペースで開かれました。

パパイヤとハヤトウリが入ったピクルス、タロイモチップス、ポルボロン(フィリピンのお菓子)など、各種食品加工について学ぶことができた参加者たち。アニータ先生からも改めて、料理の技術が家族の健康を守るとともに、収入向上にも繋がることを伝えられました。



左上：料理教室に参加した父母
右上：ピクルスとタロイモチップスの出来上がり
下：ティヌオス女性組合の家のキッチンの様子



ビラン村のアグロフォレストリープロジェクト

順調に成長、実りを迎えています



TBA/TudBolul Associationのボニファシオからビランの村クロッドのアグロフォレストリー・モニター報告がありました。(2018年度、イオン環境財団の助成金で実施)

「木々は大きく育ち、果樹については今年フルーツが実りました(上写真：果樹グアバノ、左写真：ナラの木)。2021年度実施のボールルのプロジェクトについても、多くの苗木が順調に育ち、あと5年もすればフルーツの実がなり収入に繋がっていくだろう」と今後の成長に期待をしています。